

理事長挨拶

令和4年もコロナ禍で明けましたが、皆さまには変わりなく、お元気のこととお察し申し上げます。

幕末の慶応年間、上野の彰義隊が戦乱の時でも、福沢諭吉は慶応義塾の塾生たちと勉強を続けたそうですが、私たちもコロナ禍に負けないで前進してゆきたいものです。

新渡戸基金は今年も『新渡戸稲造の世界』を、年4回の機関紙「太平洋の橋」も例年通り発行してまいります。そのほかニトベ・フレンズセミナー、秋の奨学生の選抜なども視野に入れております。

今年は新企画を秋に、10月半ばの「新渡戸稲造博士命日祭」も特別な講演会を予定しております。

コロナがなかなか終息しない現在ではありますが、こういう時こそ、これを好機ととらえ、新渡戸の『修養』の精神に学ぶことを忘れず、地道な力をつけて次の飛躍を期したいと思っております。

以上のことを、飽くまでも前向きにとらえて実行していきますので、今年も新渡戸基金への皆様のご協力をよろしくお願いいたします。